

日本人ノ脊髓(第一報告)(承前) :  
(第五)脊髓各部ノ長サト脊柱各部ノ長サトノ比較 :  
Vergleichung d. Länge einzelner  
Rückenmarksabschnitte mit derselben einzelnen  
Wirbelsäuleabschnitte

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38642">http://hdl.handle.net/2297/38642</a>

Physiol. Vol. 9. 1875. P. 154.)

43. Wildersheim, R., Grundriss der vergleichenden Anatomie der Wirbelthiere. 3 Aufl. 1893. s. 287.

44. Derselbe, 4 Aufl. 1902. s. 255.

45. Wilder, H., A. contribution to the anatomy of Siren laeertina. (Zoolog. Jahrb. Abtheil. f. Anat u. Ontog. der Thiere. Bd. 4. 1891. s. 976.)

○日本人ノ脊髓 (第一報告) (承前)

京都醫科大學解剖學教室ニ於テ

京都醫科大學助手  
醫學得業士

久保武

(都京)

(第五) 脊髓各部ノ長サト脊柱各部ノ長サトノ比較

Vergleichung d. Länge einzelner Rückenmarksabschnitte mit derselben einzelnen Wirbelsäuleabschnitte.

余ハ此關係ヲ知ラムガ爲メ、又豫メ前記二十五名ノ死體ニ就テ、脊、柱、各、部、ノ、長、ヲ、モ、計、測、セ、リ、今、兩、者、ノ、比、較、ニ、際、シ、テ、先、ツ、余、ガ、此、成、績、ヲ、約、述、セ、ム、ト、ス

日、本、人、脊、柱、各、部、ノ、長、サ、

- (一) 頸部、男子ニアリテハ最大 13,0cm、最小 9,5cm ニシテ平均 10,8cm ナリ  
 女子ニアリテハ最大 13,0cm、最小 8,5cm ニシテ平均 10,1cm ナリ此差 0,7cm トス
- (二) 胸部、男子ニアリテハ最大 33,0cm、最小 25,0cm ニシテ平均 27,7cm ナリ  
 女子ニアリテハ最大 30,5cm、最小 24,7cm ニシテ平均 26,6cm ナリ此差 1,1cm トス
- (三) 腰部、男子ニアリテハ最大 21,0cm、最小 13,5cm ニシテ平均 15,8cm ナリ  
 女子ニアリテハ最大 18,0cm、最小 13,0cm ニシテ平均 15,1cm ナリ此差 0,7cm トス
- (四) 骨盤部、男子ニ於テ最大 19,0cm、最小 14,0cm ニシテ平均 16,6cm ナリ  
 女子ニ在アリテハ最大 18,5cm、最小 14,0cm ニシテ平均 16,1cm ナリ此差 0,5 トス

更ニ兩性各部ノ平均長ヲ脊柱全長ニ比算スレバ

頸部、	脊柱全長	100	脊柱長	1
男子	15%		1/6,6	
女子	14,8%		1/6,7	
胸部、	男子	38,5%	1/2,6	
女子	39,2%		1/2,55	
腰部、	男子	22%	1/4,5	
女子	22,2%		1/3,8	
骨盤部、	男子	23%	1/4,3	

ラウエナル Ravenel ハ前記男女各十一名ニ就テ脊柱ノ前側及背側ニ於ケル各部ノ長サヲ計測シ詳細ノ成績ヲ報告セリ、然レトモ是等ハ余ガ本調査ノ主眼トスルトコロニアラザルヲ以テ、茲ニハ省畧シ、只氏ガ成績ニ基キテ其ノ概要ヲ摘録セムカ

第一背側ニ於テ

脊柱胸部ハ女子ハ男子ヨリモ長ク頸部モ亦微ニ長シ腰部ハ反之女子遙ニ短キナリ

第二前側ニ於テ

脊柱頸部及胸部ハ女子ハ男子ヨリモ稍々短ク腰部ハ女子遙ニ長カリシナリ

アルノルド Arnold ニヨレハ

脊柱頸部ハ兩性殆ンド同高、胸部ハ男子稍々高ク腰部ハ女子稍々高シトセリ

ヘンレー Henle ハ男女兩性ノ脊柱比較ニ於テ

胸部ハ女子長ク薦骨ハ女子弘ク短カク傾斜シテ存スト云ヘリ

之レヲ余ガ上記ノ成績ニ徴スルニ日本人脊柱各部ノ長サニ就テ、頸部ハ男子微ニ長ク此差平均

0.7cm ヲ得、脊柱ニ對スル頸部ノ長サハ男女共ニ略々ナリシナリ、胸部ハ女子ノ比較的長キコト

Henle, Arnold 及 Ravenel 脊側ノモノニ相當ス等ノ報告ト全ク一致セリ、腰部ハ女子却テ男子ヨリ

モ僅ニ長シ即全ク歐洲婦人ニ反セルナリ、蓋シコレ恐クハルシユカ Inselka ノ所謂歐洲婦人ノ強

キ Lendenanshoehung ニ就テ計レルコト與リテ影響セシナラム既ニ Ravenel ガ背側ト前側トニ於

テ計リ兩者成績ノ全ク轉倒セルヲ以テ見ルモ畧之ヲ推知スルニ足ルベシ、骨盤部ニ至テハ未ダ確ニ對比スルコト能ハザルナリ、余ハ今之ヨリ進ンデ上記日本人脊柱各部ノ長サト、脊髓各部ノ長サトノ比較關係ヲ表示セムトス

頸部ノ長サ  $\frac{\quad}{\quad} = 100$

男子 84.3% (脊髓頸部ノ長サ平均 9.1cm、脊柱頸部ノ長サ平均 10.8cm)

女子 83.2% (  $\quad$  ) 8.4cm (  $\quad$  ) 10.1cm)

胸部ノ長サ  $\frac{\quad}{\quad} = 100$

男子 90.6% (脊髓胸部ノ長サ平均 25.1、脊柱胸部ノ長サ平均 27.7cm)

女子 89.1% (  $\quad$  ) 23.7 (  $\quad$  ) 26.6cm)

腰部ノ長サ  $\frac{\quad}{\quad} = 100$

男子 84.8% (脊髓腰部ノ長サ平均 5.3、脊柱腰部ノ長サ平均 15.8cm)

女子 85.1% (  $\quad$  ) 5.3 (  $\quad$  ) 16.1cm)

骨盤部ノ長サ  $\frac{\quad}{\quad} = 100$

男子 30.1% (脊髓骨盤部ノ長サ平均 5.0、脊柱骨盤部ノ長サ平均 16.6cm)

女子 30.4% (  $\quad$  ) 4.9 (  $\quad$  ) 16.1cm)

右ノ成績ヲ總括シテ兩者各部ノ長サヲ對照スルニ

(一) 頸部ハ兩者比較シテ男性ハ(脊柱頸部ノ長サ大ナリシニ準シテ)女性ヨリモ(1.1%)大ナリシ

ナリ

(二) 胸部ハ兩者比較シテ男性ハ脊柱胸部ノ短カ、リシニ反シテ女性ヨリモ遙ニ(15%)長カリ

シナリ

(三) 腰部骨盤部ハ兩者比較シテ男女殆ンド同等、只女子ハ男子ヨリモ微ニ(0.3%)長カリシナリ

更ニ骺テ兩者各部ノ長徑ニ就テ觀察スルキハ余ハ實ニ男女兩性ヲ問ハズ各部著シキ差異アルニ驚クナリ、就中胸部ハ脊柱當該部ト最モ僅差隔ノ間ニアリ、頸部ハ之ニ亞ゲリ、然ルニ腰部骨盤部ニ至テハ兩者顯著ノ差隔ヲ呈シ實ニ脊柱當該部ノ約三分ノ一以上ニ短縮セルコトヲ認了シ得タルナリ

チーヘン Zielen ノ記載ニヨレバ

脊柱長徑ノ成長ニ對シ脊髓長徑ノ短縮ニ關シテハ殊ニ頸髓及腰髓ニ於テ多ク胸髓ニ於テハ比較的僅ニ顯呈スルモノナリト云フ (Vol. Läderig, Ueber das Rückenmarksegment, Archiv Anat. u. physiologie 1881 Anat. abt)

又終線ノ長サハ脊髓ノ比較的短縮ニ對應シテ常ニ稍々増長スルモノトス

ラウエチル Ravenel ニヨレバ

脊髓ノ頸部及胸部ハ脊柱ノ當該部ヨリモ著シク短シ故ニ胸髓ノ部ハ尙頸椎部ニ存ス而シテ全腰髓ハ胸椎部ニ於テ保有セラル、腰椎部ニ於テハ只脊髓骨盤部顯存スルノミナリ

プイッツル Pfitzner ハ兩者各部ノ發生ノ差異ニ就テ稍々精細ナル報告ヲナセリ (Ueber Wachstums-  
ziehungen zwischen Rückenmark u. Wirbelsäule, Gegenb. Morph. Jahrbuch, 1884.)

氏ハ成人十九名小兒六名胎兒十一名ニ就テ調査シ實ニ脊髓脊柱間特殊ノ部位ノ變差ハ全ク  
兩者不同等ノ發育機轉ニ歸セザル可カラズトナセリ、脊髓頸部ハ大サ及其全體ニ於テハ同容  
積ヲ以テ脊柱當該部ニ於ケルガ如ク成長ス

胸部ノ成長ハ脊柱當該部ニ對シテ既ニ胎生期ニアリテハ停滯シ分娩ノ後始メテ長ク增長ス  
ルモノトス

腰部、骨盤部ハ共ニ脊柱ニ後レテ成長停滯ス錐體ハ反之只胎生生活ノ間ニ停滯ス

成長ノ斯ノ不同ヲ呈セル根據ハ脊柱ニアルヤ將タ又脊髓ニアルヤヲ鑑別スルガ爲メ氏ハ實  
ニ兩者ノ計測ヲ企圖セルナリ

脊柱ニ就テ計査セル結果ハ各箇人的顯著ノ差異アリシ爲メ一モ信賴スベキ成績ヲ得サリシ  
ナリ、只胸部ハ成人、小兒、胎兒ニ就テ殆ンド常ニ全脊柱ニ對シ同一ノ關係ヲ示呈シ頸部ハ腰部  
骨盤部ノ增長セルニ應シテ僅ニ減退セルモノ、如ク覺ヘタルノミ

反之脊髓ニ於テ企テタル計測ハ凡テノ箇人的差異アリシニモ係ラズ實ニ一ニ顯著ナル成  
績結果ヲ得タルナリ

胸部ハ成人ニアリテハ小兒及胎兒ヨリモ全ク確ニ脊髓ノ大部ヲ表呈セルコトヲ知レリ、而シ  
テ此差異ハ殆ント 10%ニ達セリ、蓋シ小兒ニアリテハ大人ニ於ケルガ如ク全脊髓ハ脊柱ト殆

ンド同等ノ比例ニ於テ成長スルモノナリ、依之觀是分娩ノ時期ニ脊髓胸部ハ他部ニ比較シテ將タ脊柱管ニ對スル關係上俄然著大ノ成長ヲ營ムモノナルコトヲ確認シ得ベシ、又脊髓及脊柱ノ頸部ハ兩者比較的ノ長サニ於テハ減少セリ、即是レ脊髓胸部ノ亢進セル長徑増加ノ直接ノ結果トシテ理會シ得ベシ

脊柱、脊髓兩者各部ノ發生關係ニ就テ知り得タルモノ約上記ノ如シ、然ラバ今何故ニ脊髓胸部ガ分婉期ニ如斯基著大ノ長徑増加ヲナスヤ又何故ニ一般脊髓長徑増加ハ脊柱ノ後ヘニ停滯スルヤ等ノ問題ニ至テハ吾人ハ未ダ明確ナル解說ヲ得ザルナリ、吾人ハ猶從來ノ如ク只脊髓ノ一部分ニ於テ茲ニ發生スル處ノ神經根ニ向ツテ說ヲ設クルヨリ外ナキナリ、而シテ余ハ又茲ニ只其事實ヲ録スルノミニ満足セザル可カラズ

(第六) 身長ト脊髓長トノ比較 *Vergleichung der Rückenmarkslänge mit d. Körperlänge.*

余ノ本調査ニ就事スルヤ、之ヲ人類學的ニ觀察シテ最モ興味ノ存スベキヲ覺ヘタルハ、實ニ身長ト脊髓長トノ比較ニアリシナリ  
 一般ニ身長ノ大ナルモノハ脊柱——脊髓ノ大ナルベク小ナルモノハ之レニ反スルトハ吾人ガ當初ニ念頭ニ浮ベル立案ナリ、夫レ然リ然レトモ退テ深ク之ヲ精査スルキハ吾人ハ決シテ絶對的ニ然ク斷言シ得ベカラザルヲ知レルナリ、實ニコレベルツガ所謂日本人ノ軀幹ト脚トノ長サ如何ニ顧ミタレハナリ、ベルツハ、*Die Körperlichen Eigenschaften der Japaner. 1885.*ニ於テ精細ナル日本人ノ身長ヲ掲載シ、更ニ軀幹ト脚トノ關係ヲ調査シテ次ノ如ク論結セリ



Der Rumpf ist sehr lang, weit länger als beim Europäer, namentlich wenn man Rumpf und Beine vergleicht. Wenn eine Anzahl Japaner und Europäer zusammen sitzen, so sie meist fast gleich gross, wenn sie stehen, so ragen die Europäer um eine halbe Hauptes Länge oder mehr hervor.

Die Wirbelsäule des Japaners ist sehr lang und wenig gekrümmt, namentlich die Einwärtskrümmung der Lendenwirbelsäule fällt gering aus, weil die Leute sich selten so aufrecht halten wie Europäer. Die lange Wirbelsäule ist gleichfalls ein Rassenmerkmal.

斯ノ如クベルツハ脊柱ノ長キヲ以テ日本人ノ特徴ノ一ト斷定セリ、既ニ本邦人脊柱ノ長サノ果シテ大ナリトスレバ從テ此内ニ存スル脊髓ノ長サモ亦大ナルベキニアラザルナキカ、コレ余ガ特ニ興味ヲ以テ觀察セシ所以ナリ

余ハ今身長ト脊髓長トノ比較關係ヲ知定スルニ先チ、ベルツガ所謂日本人ノ脊柱ハ身長ト比較シテ果シテ大ナルヤ否更ニ余ガ計測ニ照シテ之ヲ確實ニセムトス

余ガ前記二十五名ノ屍體內男屍十七女屍八體ニ於ケル身長ノ計測結果ハ左ノ如シ

男子 平均 158,7cm (166,0-150,0)

女子 平均 147,6cm (154,0-142,0)

之ヲ既記脊柱ノ長サ(第二種脊柱長)

男子 平均 72,1cm (77,0-65,5)

女子 平均 67,9cm (74,0-63,5)

ニ比較スルキハ

身長——100

男子 平均 45,4% (47,3-42,1)

女子 平均 46,0% (50,3-42,4)

ナリシナリ

ベルツハ日本人ノ脊柱ニ就テ其彎曲ニ從ヒ外側ヨリ計測シ、而シテ其身長ニ對スル百分比例ハ

上流男子 47,1%

學 生 46,1% } 平均 46,4%

勞 働 者 46,0%

上流婦人 45,5%

中流女子 47,9% } 平均 46,9%

下流女子 47,4%

ヲ得タリ然ルニ歐洲人ニアリテハ多クハ平均 40-42% ナリト云フ

依是乎余ハ日本人身長ノ非常ニ小ナルニ係ラズ脊柱ノ長サハ歐洲人ニ比シ著シク大ナルコト

ヲ確知シ得タルナリ

ベルツハ尙附記シテ言ヘリ歐洲人ノ中ニテモ日耳曼人ト羅馬人ノ間ニ此比例ノ差アルヲ見伊太利人及佛國人ハ日耳曼殊ニ英國人、米國人ニ比スレバ軀幹長ク脚短シト

今ヤ余ハ身長ノ大小ハ決シテ軀幹——脊柱ノ長短ニ相比準セザルコトヲ人種的ニ解説シ得タルナリ然ラバ則脊髄ニ於テモ亦果シテ此關係ハ同一徹ニ歸ス可キカ是等ハ元ヨリ各種多數ノ調査ヲ遂グ正確ナル檢測ヲ俟タザル可カラズト雖モ兎ニ角此關係ハ實ニ一種屬中ニ於テモ各箇人ニ就テ又大ニ顧慮スベキ點ナリト信ス

余ハ今コレヨリ進ンデ余ガ計測セル二十五名ノ男女兩性ニ就テ身長及脊髄長ヲ對記シ日本人脊髄ノ比較的長サヲ論定セムトス

男子身長平均 158,7cm

女子身長平均 147,6cm

男子脊髄長平均 44,3cm

女子脊髄長平均 42,8cm

脊髄ノ比較的長サ Relative Länge des Rückenmarks

身長 ———— 100

男子 平均 27,9

女子 平均 28,9

余ハ尙フエトスト Fehst ノ記載ニ倣ヒ次ノ成績ヲ得タリ

脊髄長 ———— 1

男子 平均 3,58

女子 平均 344

次ニフェーエスト Felst ハ全身長ヲ脊椎ノ長サニ比較シテ左ノ如ク記載セリ

男子 3,76:1

女子 3,58:1

小兒 3,26:1

小女 3,20:1

即チ成人男性ハ女性ヨリモ稍々小ナリトセリ

ヘンリー Henle ショハ

脊柱ノ長サ及全身長ニ對スル關係上女性脊椎ハ男性ヨリモ僅ニ長ク而シテ一般ニ遠ク下方  
(即錐體ハ第二腰椎中部)ニ迄達セリト云フ

チーヘン Ziehen ノ著書ニハ

脊椎ノ長サト身體大サトノ比較ニ就テハ特ニ一般ノ關係ナキモ只大ナル箇人ニハ全ク屢々  
大ナル脊椎ノ長サヲ有スルヲ見ルベシトノ漠然タル記載ヲナセリ

余ハ今茲ニ歐洲人ニ就テ調査セルモノト弘ク比較スルコト能ハザレドモ既ニ日本人脊椎ノ長  
サ、於テ絶對的ニ彼我大差ナク殆ンド相伯仲セルヲ以テ見ルモ第一章第一脊椎ノ長サ參照前  
記日本人脊椎ノ長サノ大ナリシト等ク脊椎モ亦比較的長カルベキハ自ラ推知スルコトヲ得ル  
ナリ、將タ余ハ實ニ上記フェーエスト Felst ノ成績ニ對照シテ男女共ニ日本人ノ脊椎ノ長サハ身

長ニ比シ著シク大ナルコトヲ愈々確認シ得タルナリ尙茲ニ注意スベキハ上記フエースト Feilst  
及ヘンレー Henle ノ言ヘルガ如ク女子ハ男子ニ比シテ一般ノ身長ノ小ナルニ係ラズ脊髓ノ長  
サハ脊柱ニ於ケル關係ト同ジク男子ヨリモ比較的長カリシコト之レナリ而シテコレ余ガ成績  
ニ徴スルモ明カナリシナリ

然ラバ則脊髓ノ長サモ亦常ニ必スシモ身長ノ大小ニ相隨伴セザルコトハ管ニ人種的ニ於テ然  
ルノミナラズ實ニ一種屬中ニ於テモ各箇人男女年齢ニ於テ各特殊ノ關係アルヲ證認シ得ベシ  
第二章 脊髓ノ横徑、矢狀徑及周圍

Frontale, sagittale Durchmesser u. Umfänge des Rückenmarks.

茲ニ余ハ頸膨大最大部位、胸髓最小部位及腰膨大最大部位ニ於ケル横徑、矢狀徑及周圍ヲ記述セ  
ントス

(第一) 頸膨大最大部ニ於テ

余ガ男屍十七、女屍八體ニ就テ計測セル處ニヨレバ

(1) 横徑

男子ニ在リテハ最大 15,5mm、最小 11,0mm ニシテ平均 13,2mm ナリ

女子ニ在リテハ最大 15,0mm、最小 12,0mm ニシテ平均 13,3mm ナリ

(2) 矢狀徑

男子ニ在リテハ最大 11,0mm、最小 9,mm ニシテ平均 9,8mm ナリ

(3) 周圍、  
 女子ニ在リテハ最大 10.5mm、最小 8.0mm ニシテ平均 9.7mm ナリ

男子ニ在リテハ最大 40.0mm、最小 33.0mm ニシテ平均 34.5mm ナリ  
 女子ニ在リテハ最大 38.0mm、最小 35.0mm ニシテ平均 36.7mm ナリ

(第二) 脊髓、胸髓、最小部位ニ於テ

余ガ前記二十五名ノ死體ニ就テ計測セル處ニヨレバ

(1) 横徑、

男子ニ在リテハ最大 9.0mm、最小 6.5mm ニシテ平均 7.96(8.0)mm ナリ

女子ニ在リテハ最大 9.5mm、最小 7mm ニシテ平均 7.94mm ナリ

(2) 矢狀徑、

男子ニ在リテハ最大 8.5mm、最小 6.5mm ニシテ平均 7.54mm ナリ

女子ニ在リテハ最大 9.0mm、最小 7.0mm ニシテ平均 7.8mm ナリ

(3) 周圍、

男子ニ在リテハ最大 28.0mm、最小 22.0mm ニシテ平均 25.4mm ナリ

女子ニ在リテハ最大 28.5mm、最小 24.5mm ニシテ平均 26.0mm ナリ

(第三) 腰膨大最大部位ニ於テ

余カ同ジク二十五名ノ死體ニ就テ計測セル處ニヨレバ

(1) 横徑

男子ニ在リテハ最大 11,0mm、最小 9,0mm ニシテ平均 9,65mm ナリ

女子ニ在リテハ最大 11,0mm、最小 8,5mm ニシテ平均 9,76mm ナリ

(2) 矢狀徑

男子ニ在リテハ最大 11,0mm、最小 8,0mm ニシテ平均 9,3mm ナリ

女子ニ在リテハ最大 10,5mm、最小 6,0mm ニシテ平均 9,7mm ナリ

(3) 周圍

男子ニ在リテハ最大 35,0mm、最小 27,0mm ニシテ平均 33,4mm ナリ

女子ニ在リテハ最大 33,0mm、最小 28,0mm ニシテ平均 30,7mm ナリ

次ニ歐洲人ノ以上三部位ニ就テ計測セルモノヲ摘録スレバ次ノ如シ

チーヘン Nielsen ノ記載ニヨルバ

(1) 頸膨大最大部位ニ於テ

前頭徑 13-14mm

矢狀徑 6mm

周圍 38mm

(2) 腰膨大最大部位ニ於テ

前頭徑 11-13mm

矢狀徑 8.5mm

周圍 31mm

(3) 脊髓最小部位(胸椎ノ殆ンド中部ニ於テ)

前頭徑 10mm

矢狀徑 8mm

周圍 27mm

ヘンレー Henle ニヨレバ

頸膨大最大部位 弘徑 13-14mm

腰膨大最大部位 弘徑 12mm

ニ増大シ矢狀徑ハ僅ニ1mm内外増大スルノミ而シテ頸膨大ト延髓トノ間ニアリテハ横徑ニ

12ヲ算スベシ

アルノルド Arnold ニヨレバ

脊髓ハ胸部及上方頸部ニアリテ 5.5<sup>5.5</sup>ノ弘サヲ有シ、頸膨大ニアリテハ殆ンド 6<sup>6</sup>、腰膨大ニア

リテハ 5.5<sup>5.5</sup>ノ弘サヲ有ス

ラウセル Rauber ニヨレバ

脊髓ノ膨大部ハ著シク横徑ヲ増ス

兩膨大間(胸椎ノ上部)ニアリテハ横徑 10mm、矢狀徑 8mmナリ



頸膨大最弘部ニアリテハ横徑 13-14mm ニ達シ腰膨大ハ 12mm ノ上ニ至ル然レモ矢狀徑ハ只  
僅ニ 1mm 内外ノ増加アルノミ

頸膨大ノ上部延髓トノ間ハ横徑 11-12mm ヲ算ス

今以上記載スル處ニヨリ彼我相對照セムカ

(第一)頸膨大最大部ニ就テ

余ガ成績ニヨレハ横徑ハ著シク増大シ男女平均矢狀徑ニ比シテ 3mm 以上長カリシナリ此關係  
ハ殆ンド全ク歐洲人ノモノト相一致シ即アルノルド Arnold ノ記セルガ如ク頸膨大ハ恐ク略横  
橢圓形ニシテ微ニ前後ニ壓平セラルベシ

(第二)脊髓(胸髓)最小部位ニ就テ

横徑矢狀徑共ニ只一般ニ歐洲人ニ比シテ 1mm 内外短小ナリシノミ恐ク又歐洲人ノモノト其關  
係ハ同ジク Arnold ノ所謂畧圓壘形ニ近カルベシ

(第三)腰膨大最大部位ニ就テ

余ハ此計測結果歐洲人ノモノト大ニ相違ノ點アランコトヲ發見セリ  
余ガ成績ニヨレバ横徑矢狀徑平均ノ差異ハ男子ハ僅ニ 0.35mm ニシテ女子ハ兩者殆ンド同長ナ  
リシナリ

然ルニ Ziehen ノ成績ニ徵スルモ腰膨大ハ頸膨大ト同ジク横徑ト矢狀徑トノ差異著大ニシテ平  
均 2.5-4.5mm ノ多キニ及ハリ

其他 Rauber, Henle ニヨルモ膨腰大ハ頸膨大ト同シク横徑ニ於テ著シク増大シ矢狀徑ニハ僅カニ増大スルノミナリト云ヘリ

換言スレバ歐洲人ノ腰膨大部ハ頸膨大部ト一般概形ハ殆ンド相異ナラズ断面略横橢圓形ナルモノ、如シ只 Arnold ハ腰膨大ハ僅ニ弘ク殊ニ頸部ヨリ弘カラザルモ厚シト記セリ然レドモ余ガ計測ニ於テ矢狀徑ハ略上記歐洲人ノ長サト同一ナルニ係ラズ横徑ニ於テハ我ハ彼ニ比シ著シク短小ナル(3mm内外)コトヲ知り得タリ若シ此事實ヨリ打算スルキハ日本人ノ腰膨大ハ歐洲人ヨリモ多ク圓壘形ニ近カルベシ

周圍ニ就テハ一般ニ頸膨大最大部位ノ膨腰大最大部位ヨリ大ナルコト彼我全ク一致セリ男女兩性ニシテハ腰膨大最大部位ノ周圍ハ男子ハ女子ヨリモ大ナリ然ルニ頸膨大最大部位及胸髓最小位ニ於テハ女子ハ男子ヨリモ却テ僅ニ大ナリシナリ

但シ余ハ既記ノ如ク日本人脊髓腰膨大ノ部果シテ全形特殊ナルベキカ否ヤヲ確メンガ爲メニ試ニ脊髓頸膨大部胸部及ビ腰膨大部ヲ取リテ各切片ヲ作り同時ニ Henle ノ脊髓ノ右三部ノ切片ヲ取リテ直接比較セシニ唯一腰膨大部ニ就テ實ニ著シク兩者ノ形狀ノ異ナレルヲ認證シ得タルナリ(標本供覽)

余ハ尙終ニ臨ミ兩膨大部ノ成立ニ就テ少シク附記セントス蓋シ脊髓ノ兩膨大部ハ胎生第三乃至第四月ニ至テ發生シ實ニ四肢ノ能力ニ向テ密接ノ關係ヲ有ス而シテ該部ノ大小形狀等ハ實ニ比較解剖學上興味アル原則ニ歸スベキナリ例ヘバ魚類ノ脊髓ハ平等ノ強度ヲ以テ脊椎管内

ニ存シ、龜鼈鳥類ノ如キモノハ膨大部ハ強ク發生シ、蛇ノ脊髓橫断面ハ橢圓又ハ環圓狀ナラスシテ殆ンド腎臟形ナリ、其他 Cyclostomen 及 Chintzen ノ脊髓ハ帶狀ニ扁平ナリト云フ、要スルニ脊髓ノ圓柱ナルハ全哺乳動物ノ通有性ナリト雖モ爾他有脊椎動物ニ於テ尙他ノ形狀ヲ有スルモノ稀ナラザル也

第貳篇 脊髓各部及硬膜囊ノ下界位(第二表參照)

Untere Grenzen der einzelnen Rückenmarksabschnitt und des Duralsacks (Tabelle II.)

茲ニ錐體下界位及硬膜囊下界位ノ如キ多ク之ヲ計查セシモ、頸部胸部等ノ下界位ニ就テハ余ガ本調査ニ從事シテ後遅ク着意シ漸ク最後ノ二三ニ就テ計查シタルノミ、殊ニ所謂骨盤部薦骨尾閩骨部ノ下界位ハ實際上明ニ之ヲ知察スルコト難カリシナリ

(第一) 頸部、胸部、腰部下界位

余ハ只便宜上二三計查シタルモノヲ茲ニ附記スルニ留メ、向後調査ノ上更ニ補フコト、セン

各部

胸部	腰部
D.10. 中部	D.12. 下部
—	—
D.11.	D.12. 下部

頸部ノ下界 (男子三回)

第六乃至第七頸椎ニ位ス

胸部ノ下界 (男子二回)

第十乃至第十一胸椎ニ位ス

(原著)

フイツツチル Pfiznerハ男屍十二女屍四體ニ於テ調査シ左ノ如キ成績ヲ掲載セリ (Morph. Jahrb. 1884.)

位 界

	頸 部
N 9♂	C.6. 下縁
N12♂	C.6. 下部
N15♂	C.7. 下縁

腰部ノ下界 (男子二回)  
第十二胸椎部ニ位ス

脊 髓 各 部 下 界 位

番 號	年 齡	頭 部	胸 部	腰 部	骨 盤 部	
♂	1	25	C.6 $\frac{2}{4}$	D.10 $\frac{1}{2}$	L $\frac{1}{4}$	L1. $\frac{1}{4}$
♂	2	31	C.6 $\frac{3}{2}$	D.10 $\frac{1}{2}$	L11 $\frac{3}{4}$	21 $\frac{1}{2}$
♂	3	31				
♂	4	34	C.7 $\frac{1}{4}$	D.10 $\frac{3}{4}$	L $\frac{1}{2}$	L1. $\frac{3}{4}$
♂	5	34	C.7	D.10 $\frac{3}{4}$	L $\frac{3}{4}$	L1. $\frac{3}{4}$
♂	6	37	C.7 $\frac{1}{4}$	D.10 $\frac{1}{2}$	L $\frac{1}{4}$	L1. $\frac{1}{4}$
♂	7	37	C.7 $\frac{1}{4}$	D.10	L $\frac{1}{2}$	L1. $\frac{1}{4}$
♂	8	42		D.10 $\frac{1}{2}$	D11 $\frac{3}{4}$	L $\frac{3}{4}$
♂	9	43				L1.
♂	10	48	C.7 $\frac{1}{2}$	D.10 $\frac{3}{4}$	L1	L1. $\frac{3}{4}$
♂	11	53	C.7 $\frac{1}{2}$	D.10 $\frac{1}{4}$	D11 $\frac{1}{2}$	L1. $\frac{1}{2}$
♂	12	63	C.7	D.10 $\frac{1}{4}$	L $\frac{1}{4}$	L1. $\frac{1}{4}$
♂	13	65	C.7 $\frac{3}{4}$	D.10 $\frac{1}{4}$	D11 $\frac{3}{4}$	L $\frac{1}{2}$
♀	1	43	C.7 $\frac{3}{4}$	D.10 $\frac{1}{4}$	D12	L $\frac{1}{2}$
♀	2	48	C.7 $\frac{3}{4}$	D.10 $\frac{1}{2}$	D11 $\frac{3}{4}$	L $\frac{3}{4}$
♀	3	53				
♀	4	65	C.7 $\frac{1}{4}$	D.10 $\frac{3}{4}$	L1	L1 $\frac{1}{2}$
♀	5	68	C.7 $\frac{3}{4}$	D.10 $\frac{3}{4}$	L $\frac{1}{2}$	L1 $\frac{1}{2}$
差	隔		C.6 $\frac{3}{4}$	D.10	D11 $\frac{1}{2}$	L $\frac{1}{2}$
			C.7 $\frac{3}{4}$	D.10 $\frac{3}{4}$	L1	L1 $\frac{3}{4}$

之ヲ解説スレバ

頸部ノ下界 男女十四回ニ就テ

第六頸椎部ニ存セルモノ一回、第七頸椎部ニ存セルモノ十三回

胸部ノ下界 男女十六回ニ於テ

第十胸椎ニ存セルモノ十五回、第十一胸椎ニ存セルモノ一回

腰部ノ下部 男女十五回ニ於テ

第十一胸椎ニ存セルモノ五回、第十二胸椎ニ存セルモノ一回

第一腰椎部ニ存セルモノ九回

骨盤部ノ下界 男女十六回ニ於テ

第一腰椎部 (L1-L2)ニ存ス(全回)

概略右ニ示スガ如シ、余ハ今茲ニハ元ヨリ毫モ兩者ノ關係ヲ論シ難キモ敢テ附記シテ他日ヲ俟  
ツ

(第二) 脊髓錐體ノ下界位

*Untere Grenze d. Conus medullaris.*

錐體ノ下界位ヲ調査スルハ嘗ニ錐體自己ノ位置ヲ制定スルガ爲メノミナラズ又實ニ脊髓長徑  
ヲ知ルニ當リ喫緊ノ關係アルナリ、若シ夫レ此位置ニシテ其當ヲ失セムカ、方ニ脊髓ノ長サノ相  
違ヨリ、延テ之ヨリ起算セル凡テノ計測ハ全ク誤謬ニ歸セムノミ、コレ其下界位ノ常ニ正鵠ヲ得

ムコトノ最モ重要ナル所以ニシテ、而モ余ガ最モ苦心セシトコロトス、(總論參照)  
 余ガ二十五名ノ死體男屍十七、女屍八體ニ就テ調査セシトコロニヨレバ

日本人脊髓錐體下界位 (總表參照)

男子 (十七回)

第二腰椎ニ存セルモノ	十回
中部ニ位セルモノ	五回
下部ニ位セルモノ	四回
上部ニ位セルモノ	一回
第三腰椎ニ存セルモノ	四回
中部ニ位セルモノ	四回
第十二胸椎ニ存セルモノ	三回
下部ニ位セルモノ	一回
下縁ニ位セルモノ	一回
第一腰椎トノ間ニアルモノ	一回

差隔 Schwankungsbreite.

最高ノモノ 第十二胸椎ノ下部ニ位セルモノ  
 最低ノモノ 第三腰椎ノ中部ニ位セルモノ

女子 (八回)

第二腰椎ニ存セルモノ 五回

下部ニ位セルモノ 五回

第三腰椎ニ存セルモノ 二回

上部ニ位セルモノ 一回

中部ニ位セルモノ 一回

第一腰椎ニ存セルモノ 一回

下部ニ位セルモノ 一回

差隔 Schwankungsbreite.

最高ノモノ 第一腰椎下部ニ位セルモノ

最低ノモノ 第三腰椎中部ニ位セルモノ

次ニ歐洲人ニ就テ測定セルモノヲ記載セムカ

フイツツチル Pfizner ハ前記論文ニ於テ次ノ如ク記セリ

氏ガ男屍十三、女屍四體ニ就テ計測ノ結果

男子 (十三回)

第一腰椎ニ存セルモノ 十回

第二腰椎ニ存セルモノ 三回

女子 (四回)

第一腰椎ニ存セルモノ 三回

第二腰椎ニ存セルモノ 一回

差隔 Schwankung.

最高  $L\frac{3}{4}$

最低  $2L\frac{1}{4}$

チーヘン Ziehen ノ記載ニヨレバ

脊髓尾端ハ最モ多クハ第一腰椎ノ最下乃至第二腰椎ノ最上線ニ達セリ然レモ又其殆ンドハ  
 〆ハ脊髓ハ既ニ第一腰椎ノ上三分ノ二部或ハ第二腰椎ノ下三分ノ二部内ニ終レルナリ

女子ハ第一腰椎又ハ第二腰椎ノ部内ニ達シ男子ハ第二腰椎ニ於ケルヨリモ第一腰椎ノ部内  
 ニ存スルコト是ニ倍スルナリ

稀ニハ健全ナル成人ニ於テ脊髓ハ尙低ク或ハ尙高ク存スルコトアリ

モルヘッド Moorhead 氏ニヨレバ脊髓ノ最高終端點ハ第十二胸椎下縁ノ上 5mm ニアリ最低終端  
 點ハ第二腰椎ノ下縁ノ高サニアリト云フ

但シ茲ニ注意スベキハ同氏ノ觀測セル實例ノ中前者ハ脊柱彎曲 Rückenmarkskrümmung ヲ呈  
 セシコトコレナリ

ワリーリング Waring ハ一男子ニ於テ脊髓ハ第三腰椎ノ上縁ニ達セルモノヲ實驗セリト云フ



又脊椎破裂 Spina bifida ノ場合ニ於テ脊髓尾端ノ薦骨管内ニ存セルヲ目撃セルモノアリ  
(Recklinghausen, Archiv für path. Anat. Bd. 105)

ラウバル Rauber ニヨレバ

錐體ノ尖端ハ一般ニ男子ハ第一腰椎ノ下縁ニ位シ女子ハ通常僅ニ低ク第二腰椎ノ中部ニ位ス(但シ此間元ヨリ僅ノ差隔アリ殊ニ男子ニ於テ然リ)又初生兒ニアリテハ尙低ク位シ殆ンド第二腰椎若シク第三腰椎ノ下縁ニ達ス、於是乎女子ハ多クノ他ノ點ニ於ケル關係ト同シク此現象ニ於テモ亦小兒ノ景態ヲ取ルモノナリ

ヘンレー Henle ニヨレバ

錐體尖端ハ通常第一腰椎ノ下縁ニ近ク存ス而シテフェースト Feist ハ女子ハ長ク即第二腰椎ノ中部ニ迄達スト云ヘリ

アルノルド Arnold ニヨレバ

一般ニ第一、第二腰椎迄達シ時トシテハ第十二胸椎又ハ第三腰椎ニ迄至ルコトアリ女子ニアリテハ屢々男子ヨリモ遠ク下方ニ位スト云フ

リュゼンゲル Rüdinger ニヨレバ

男子ハ第一腰椎ノ下端迄、女子ハ第二腰椎ノ中部迄達スルモノナリト云フ

記シ去リ、記シ來リ、一昂一低、彼我相對照シテ、一般ニ我レノ彼ニ比シテ多少低キハ觀ナキニアラサル乎、既ニ Pflüger, Ziehen, Rauber 等ノ記載ニ徴スルモ歐洲人ノ下界位ハ一般ニ第一腰椎ニ位シ

只僅數ハ第二腰椎ニ達スルコトアルナリ、殊ニ Pfizner ノ計測ニヨレバ、男女共ニ十七回中十三回ハ第一腰椎ニ位セシナリ然ルニ余ガ此計測ノ結果一般ニ第二腰椎ニ存セルモノ最多數ヲ占メタルナリ

Zielen ハ男子ハ第一腰椎ニ存スルヲ第二腰椎ニ於ケルヨリモ之ニ倍スト明言セリ、而モ Pfizner ノ成績ニヨレバ尙多ク三倍以上ニ達セルナリ、然ルニ余ガ調査ニ從ヘバ却テ第二腰椎ニ存セルモノ全數ノ過半ヲ占メタルナリ、否尙第三腰椎ニ達セルモノ意外ニ多カリシナリ

又女子ハ一般ニ第一腰椎若シクハ第二腰椎ノ部内ニ存シ且ツ男子ヨリモ低位ニアリト云フハ Fehst, Redinger, Rauber 女子ハ通常第二腰椎ノ中部ニ存スト記載セリ、然レモ前記フイツツ子ル Pfizner ノ成績ニヨレバ、女子ニアリテモ第一腰椎ニ位スルモノ最モ多カリシナリ

余ガ調査ニヨレハ女子ハ第二腰椎下部ニ位セルモノ最モ多ク第三腰椎ニ達セルモノ之ニ亞ギ第二腰椎ニ存セシモノ僅ニ一回アリシノミナリ

Waring ハ既ニ一男子ニ於テ第三腰椎ノ上縁ニ達セルモノヲ實驗セリト特筆大記セルモ、余ノ觀測セシ處ニ徴スレバ第三腰椎(而モ中部)ニ於テ之ヲ見シモノ決シテ稀數ナラザリシナリ

Moorhaed ハ所謂脊髓最高終端點トシテ第十二胸椎ノ下縁ノ上 3mm ニ位セシモノヲ報告セリ、余ハ余ガ一例 (N15) ニ於テ又第十二胸椎下部ニ位セルモノヲ實驗セルナリ

元ヨリ余ハ今日ノ成績ヲ以テ詳細ニ彼我ノ關係ヲ論斷スルヲ能ハザルモ兎ニ角此僅數ノ計測ニ於テ既ニ上記ノ如キ顯著ノ差異アル以上ハ——將タ歐洲人ノ位置ノ最早ヤ固定セル以上ハ——

余ハ茲ニ確ニ日本人脊髓錐體下界位ハ歐洲人ニ比シ低ク位スト斷定スルニ憚ラザルナリ、又男女兩性ニ於テ女子ノ一般ニ多少低位ナルベキハ上記ノ計表ニ徴スルモ畧推定シ得ベシ(未完)

## ○處女ニ於ケル卵巢肉腫ノ一例

醫學得業士 越野義三郎

(澤金)

本例ハ去五月四日十全會講話部第三大會ニ於テ演舌シタルモノナルガ茲ニ訂正ヲ加ヘ餘白ヲ汚スコトトセリ

卵巢ニ於ケル肉腫ハ卵巢癌腫ト同シク稀有ニ屬ス諸大家ノ統計ニ徴シ其梗概ヲ推知シ得ベシ

Cohn	百例ノ惡性腫物中	十一
Leopold	二十六例	十一
Olshausen	六十二例	十二
Winckel	六十四例	三
Herzfeld	四十例	十一
Schiffner	五十八例	十
Rothenberg	二十二例	六
Omori u. Ikeda	十三例	三